

(企画挨拶)女性医師支援シンポジウム2016

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-08-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹宮, 孝子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031976

女性医師支援シンポジウム 2016

竹宮 孝子

東京女子医科大学男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センター 副センター長
東京女子医科大学総合研究所 准教授

今年の女性医師支援シンポジウムの特徴は2つあります。1つは、前半に行われる第一部の研究発表のプログラムの中に医学部3年生が経験した研究プロジェクトの研究報告を組み入れたことであり、もう1つは、後半の第二部に女性医師・研究者のスキルアップセミナーとして、タイムマネジメントについてのご講演を賜ることです。また、会のはじめに、女性医師・研究者支援センターの斎藤加代子所長から、本学の女性医師支援の概要や歴史について説明があり、H27年度「宮原敏基金・女性臨床医師支援」対象者である眼科の小暮朗子准講師からは、1年間の研究支援期間の成果や今後の展望などについての研究報告もあります。今回は、いろいろな視点や立場の方から話を聞くことができる内容となっておりますので、今からとても楽しみにしています。

これらの盛りだくさんのプログラムに参加して頂くことにより、女子医学生、若手医師の皆さんには、本学で行っている女性医師支援プログラムの具体的な内容を知り、今後、積極的に活用してもらいたいと願っています。また、支援を支えてくださっている皆さまには、皆さまからのご支援がどのように連携し、どのような成果に結びつき、そして、いかに女性医師を支えているのかということを実感して頂ければ幸いに存じます。

実際の女性医師支援は、現場で行われている日々の小さなサポートの積み重ねであり、生活に寄り添った保育支援や短時間勤務支援などがメインとなっています。研究者支援は、さらに、臨床医、研究者としてのキャリアを形成し発展させ、後輩の育成に尽力するような人材を育成するという目的で行われます。支援を受ける側は、時にプライベートの時間を削り、また、時には家族に負担をかけることもあるかもしれません。さらに、キャリアを重ねる毎に孤独さを実感することもあると思います。それでもなお、前に進みたいと思える意志、意欲、そして、それを楽しむ心のゆとりと強さを持ち続けてもらいたいと願いながら、関係者一同、毎年、本シンポジウムを企画しています。今年も皆さまとの意見交換や交流を楽しみにしております。どうぞお気軽にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。